

【展示物名】 里山の楽校（植栽ゾーン）

【該当する学年】 **小3** **小4** 小5 小6 **中1** 中2 **中3**

【学習指導要領】 エネルギー 粒子 **生命** **地球**

<<小学校3年>

(2) 身近な自然の観察

身の回りの生物の様子を調べ、生物とその周辺の環境との関係についての考えをもつことができるようにする。

<小学校4年>

(2) 季節と生物

身近な動物や植物を探したり育てたりして、季節ごとの動物の活動や植物の成長を調べ、それらの活動や成長と環境とのかかわりについての考えをもつことができるようにする。

<中学校1年・3年>

(1) 植物の生活と種類

身近な植物などについての観察、実験を通して、生物の調べ方の基礎を身に付けさせるとともに、植物の体のつくりと働きを理解させ、植物の生活と種類についての認識を深める。

(7) 自然と人間

自然環境を調べ、自然界における生物相互の関係や自然界のつり合いについて理解させるとともに、自然と人間のかかわり方について認識を深め、自然環境の保全と科学技術の利用の在り方について科学的に考察し判断する態度を養う。

【写真】



【人が手を加えていない放置林のようす】



【植栽されている植物と解説看板のようす】

【展示物の説明および学習内容（ねらい）】

☆ 里山の復元を目指し、近郊の植物が観察できるように様々な樹木や野草を植栽し、五感を活かした体験ができる植栽ゾーンを設けている。

☆ **小学校3年「身近なしぜんのかんさつ」、中学校1年「植物のくらしとなかま」**では、動植物の観察・記録の方法や同定などについて、**専門の学習指導員の支援**を受けながら学習することができる。

☆ **小学校4年「秋の自然」**では、小学校の校外学習シーズンに合わせて、**学習指導員の支援のもと多様な動植物の季節による変化が観察**できる。

☆ **中学校3年「自然と人間」**では、落ち葉などのゆくえと生物のはたらきを調べる学習において、日当たりのよい場所や悪い場所、樹木が密集している場所とまばらな場所といった、**様々な条件のもと落ち葉や土を採取し、土の中の小動物などの観察し比較を行う**ことができる。